

國第
七
回
參議院厚生委員會會議錄

昭和二十五年二月十五日(水曜日)午前
十時四十二分開会

○本日の会議に付した事件
○麻薬取締法及び大麻取締法の一部を
改正する法律案(内閣提出)

西王二水注解

○委員長(塚本重藏君) これより委員会を開会いたします。本日は麻薬取締法及び大麻取締法の一部を改正する法律案を議題にいたしまして、その審議を進めます。先ず提案理由の説明をお願いいたし

○國務大臣(林謙治君)　只今議題にござりました麻薬取締法及び大麻取締法の一部を改正する法律案につきまして、簡単に御説明いたします。

検査の指揮の権限は厚生大臣に属しております。関係上、国の一貫した取締行政を行うことが困難な状況にあつたのであります。今回の改正によりまして、国の一貫した行政、即ち官吏としてこの取締行政を行わんとするものであります。

なり或いは政府委員の方から御説明いたさせます。
○委員長(塙本重藏君) それでは今少し内容について改正の要點を尾野厚生省薬務局長代理から御説明をお願いいたします。
○説明員(星野毅子郎君) 薬業取締法及び大麻取締法の一部を改正する法律案の改正の趣旨は、只今厚生大臣より申上げた通りでございます。ただ少しく詳細にその趣旨を補足いたしますならば、身分関係におきまして、只今厚生大臣の指揮監督を受けまして薬業の取締、検査に当つております薬業取締法の、都道府県知事の任命いたしまして、地方の吏員といふ身分を持つておるわけであります。が、身分関係と命令系統を一致せしめることによりまして、最近の発達いたしました薬業犯罪の捲き、取締に完全を期したいという強い関係方面の要望もございまして、各條文中國府県の知事の権限を全部厚生大臣にしました。従いまして都道府県知事の実施機関であります当該吏員の身分を抜きまして、これを官吏に統一し、薬業取締員を薬業取締官に改めました。阿片と共に薬業製造と分配の制限に関しまする條約がございました。我が國も加盟しておつたわけでございますが、その條項に、特別の機関をしてこれらの薬業の行政に当らしめるとい

う字句があるわけでございます。世界の各国におきましては、国の特別の機関によりましてこれを実施しておりますとござります。私が承知いたしております。では、ブラジルのみが、國と地方とこれを分けまして行なつておる状況でござります。ただ國の機関において統一せられておるよう承知いたしております。さような関係もございまして、将来國際關係へ復帰いたしまして、この條約に直接加盟するという機会になりました場合に備えまして、かかる改正を行なつたわけでございます。

條文といたしまして特に御説明申上げたいと存じますのは、五十二條の二の、「厚生省に二百五十名以内の麻薬取締官を置き、各都道県にこれを駐在させる。」現在は二百五十名以内の麻薬取締員を置きまして、これを厚生大臣が指名するということになつておりますが、これを取締官に改めまして國の官吏といたしました。駐在場所は各都道府県にこれを駐在させるということになつました。その二項といたしまして、「麻薬取締官の駐在する位置及び都道府県ごとの員数は、厚生大臣がこれを定める。」ということになります。尙その他各條文についておられます。尙その他各條文について、例えば麻薬の盜難の届出の権限或いは届出を受ける権限が知事にありましたので厚生大臣に移し、或いは業務停止の権限を厚生大臣に移します。或いは臨検、検査等の、知事が当該吏員をして行わしめる権限を持つておりますのを全部厚生省に統一する

というより、只今の趣旨に応じまして全部條文を改正したのであります。大麻取締法におきましても、例え厚生大臣と知事両者が不祥事故の調査を命じますとか、或いは立入検査の権限が当該官吏或いは吏員にあつたわけではありませんが、これを改めまして、全般部官吏一本にいたしたという事務的な改正に過ぎないのであります。厚生省の官吏設置法におきましても、従来麻薬取締員を指名することになつておりますが、今後は厚生省の官吏の中から麻薬取締官を補職するということになつたわけであります。

國務大臣 厚生大臣 林 讓治君
說明員 厚生事務官(代) 星野敏子郎君
理) 厚生事務官(代) 星野敏子郎君

昭和二十五年二月二十四日印刷

昭和二十五年二月二十五日發行

參議院事務局

印刷者 印刷 所